

第71期 株主通信

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日

佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに、当社第71期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

2025年6月

代表取締役社長 上田 正博

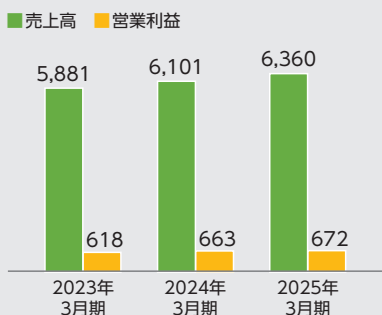
業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

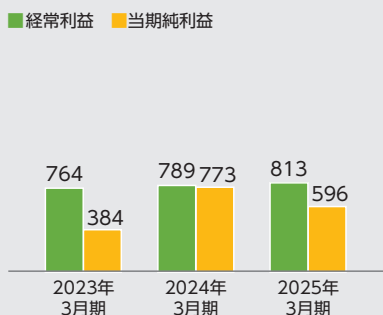
佐藤食品 IR

検索

売上高／営業利益（単位：百万円）

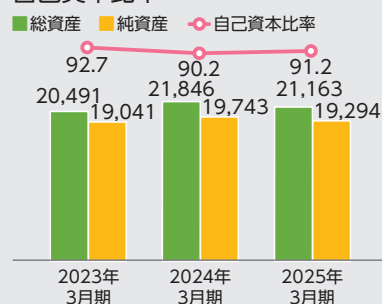


経常利益／当期純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：%）



役員一覧（2025年6月24日現在）

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役	稲垣 篤
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	那須 智
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二
監査役（社外）	関谷 保仁

株式の状況（2025年3月31日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	3,985,775株 (自己株式5,041,685株を除く)
株主数	1,471名

会社概要（2025年3月31日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	168名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された100株以上の株式を保有される株主様	
優待内容	100株～499株	タリーズデジタルギフト（2,000円分）
	500株～999株	タリーズデジタルギフト（2,000円分） +当社製品（1,000円相当）
	1,000株以上	タリーズデジタルギフト（2,000円分） +当社製品（3,000円相当）
発送時期	当社製品（500株以上保有の株主様）	6月上旬頃（予定）
	タリーズデジタルギフト	6月下旬頃（予定）

佐藤食品の茶エキス粉末

当社の茶エキス粉末は、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。



Sアトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高: 2,958百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶、コーヒー等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



天然調味料 ● 売上高: 2,449百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス(鮭、エビ、真鯛、いか)等
※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



植物エキス ● 売上高: 838百万円

イチゴ、レモン、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、シャインマスカット、桃、栗、ゆず、はちみつ、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



粉末酒 ● 売上高: 108百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得! 当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

当期の概況

当事業年度における我が国経済は、訪日外国人旅行者の増加によるインバウンド需要の拡大や、社会経済活動の活発化に伴う雇用情勢の改善などを受け、回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇による消費者マインドの低下や金融資本市場の変動による景気の下振れが懸念されることから、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

海外経済につきましては、中国経済の先行き懸念や、米国における金融政策及び関税政策の影響による景気の下振れリスクに加えて、地政学リスクの高まりなどから、予断を許さない状況が続いております。

当食品業界につきましては、インバウンド需要の拡大や外出機会の増加を受け、飲料需要及び製菓用途需要に持ち直しの動きが見られるものの、エネルギーコスト及び原材料コストの高止まりに伴う物価上昇の影響から、消費者の節約志向が高まるなど、厳しい事業環境に直面しました。

当社といたしましては、エネルギーコスト及び原材料コストの動向に注視しつつ、安全・安心な原材料の安定調達や、製品の安定供給に努めるとともに、変化・多様化する消費者ニーズや顧客ニーズを的確に把握し、それらのニーズに合致した高付加価値製品の開発や、新製法・新技術開発に挑戦してまいりました。

このような状況のもと、当社の当事業年度における売上実績は、茶エキスを中心に回復基調で推移いたしました。

茶エキスにつきましては、ウーロン茶エキス等が減少したものの、飲料需要やオフィス需要が堅調に推移し、麦茶エキス・ほうじ茶エキス等が増加したため、売上高は2,958百万円(対前年同期比5.4%増)となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末魚介等が減少したものの、内食需要が堅調に推移し、粉末鰹節・粉末椎茸等が増加したため、売上高は1,747百万円(同0.4%増)となりました。

植物エキスにつきましては、インバウンドの増加を受け土産などの製菓用途需要が好調に推移し、果実エキス等が増加したため、売上高は838百万円(同11.2%増)となりました。

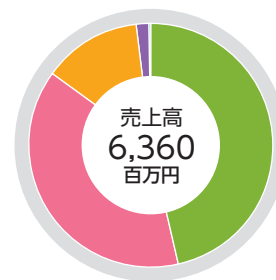
液体天然調味料につきましては、鰹節エキス等が減少したものの、内食需要の継続により、昆布エキスが増加したため、売上高は701百万円(同2.2%増)となりました。

粉末酒につきましては、清酒タイプ等が減少したものの、インバウンドの増加を受け土産などの製菓用途需要が堅調に推移し、ワインタイプ等が増加したため、売上高は108百万円(同0.7%増)となりました。

以上の結果、当事業年度の売上高は6,360百万円(同4.3%増)となりました。

利益面につきましては、売上高の増加により営業利益は672百万円(同1.4%増)、経常利益は813百万円(同3.0%増)となりました。また、法人税等280百万円(同61.2%増)を計上したため、当期純利益は596百万円(同22.9%減)となりました。

売上高構成比



中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。